

ビジネスの夢を共に育む



Vol.6
2025.11



DIG税理士法人での 成長とこれから

新卒入社社員インタビュー：入社3年目、東京で挑戦する

Client interview
株式会社シトラスパレット

年末調整
ガイド

1day仕事体験
開催レポート

表紙：DIG 税理士法人新卒入社メンバー

大学時代のインターンから入社へ

社外報プロジェクト：以後「PJ」）まずは入社のきっかけを教えてください。

今道）大学3年のときからDIGでインターンをしていました。最初は数字や会計に自信がなかったのですが、社員の方々が本当に丁寧に指導してくださり、少しずつ「できるようになる楽しさ」を実感できたんです。特に印象的だったのは、ただ作業を教えるのではなく、「なぜこの業務が大切なのか」を必ず説明してくださったこと。自分の成長と一緒に喜んでくれる雰囲気もあって、自然と「ここで働きたい」と思うようになりました。

PJ）インターン経験が入社の決め手になったんですね。

今道）はい。就職活動のときにいろいろな企業を見ましたが、「人」と「雰囲気」が一番大切だと思っていました。DIGの社員の方は、どなたも温かく接してくださり、安心感がありました。「一緒に働いたらこの人たちと」思えたことが大きかったです。

入社1・2年目の学びと成長

PJ）入社後はどんな業務からスタートしましたか？

今道）実は大学時代のインターンの頃から、確定申告の補助や新規のお客様対応に携わっていました。もちろん最初は先輩に同席していただきながらですが、実際にお客様とやり取りする経験を学生のうちに積めたことは、とても大きかったと思います。



入社後はその経験を土台に、より主体的に対応を任せてもらえるようになりました。確定申告を自分で仕上げることもできましたし、新規のお客様への初回ヒアリングも、一人で担当させてもらえるようになりました。最初は不安もありましたが、お客様から「丁寧に説明してくれて助かった」と言ってくれたとき、自分の成長を実感しましたね。

また、福岡では地域の中小企業だけでなく、スタートアップ系のお客様を担当する機会もありました。短期間で次々と新しいチャレンジを重ねていく経営者の方と向き合う中で、「数字をどう未来につなげるか」という視点を学べたのは、とても貴重な経験でした。

東京事務所への転勤 — 新しい環境での挑戦

PJ）そして3年目の春、東京事務所に異動されたんですね。

今道）はい。実は上司から「東京で挑戦してみないか」と声をかけていただいたのがきっかけです。突然の話だったので驚きましたが、それ以上に「自分に期待してくれているんだ」と感じて嬉しかったですね。

ただ、福岡で築いてきたお客様や先輩方との関係から離れる寂しさもありました。ですが、若いうちに新しい環境に飛び込むことは必ず成長につながると思い、前向きに挑戦を決めました。

PJ）実際に東京で働いてみて、福岡との違いはありましたか？

今道）東京は案件の規模も大きく、スピード感も一層強い印象です。ただ、福岡でスタートアップ系のお客様を担当していた経験が、今とても役に立っています。成長の早い会社と関わる時に必要な視点や姿勢は、福岡で学んだことそのものです。だからこそ東京でも落ち着いて対応できていると感じます。福岡での経験があったから、東京での挑戦を前向きに楽しめています。

新しい環境で感じたプレッシャーとやりがい

PJ）東京での仕事にはプレッシャーもあるのでは？

今道）もちろんあります。

私が東京へ異動した際は人脈もコネもほとんどない状態でした。0に近い状態からのスタートだったのでプレッ

挑戦する

DIG 税理士法人
税務コンサルティング部 今道 文隆

シャーもありました。業種も多様で案件の規模も大きく、知識不足を痛感する場面もあります。ただ、そこで逃げずに「学ぶチャンス」と受け止めることを意識しています。福岡で教えていただいた「まずはしっかり聞く姿勢」が東京でも役立っていて、お客様に寄り添うことは場所が変わっても同じだと実感しています。



▲東京事務所メンバー

成長を支える“人”の存在の挑戦

PJ) DIG の職場の雰囲気について改めて感じることはありますか？

今道) やっぱり「人の温かさ」だと思います。東京でも福岡でも、わからないことを聞けば必ず手を止めて教えてくださるし、失敗しても頭ごなしに叱るのではなく「どうしたら次に活かせるか」を一緒に考えてくれます。福岡時代に「できるようになったことを必ず見つけて褒めてくれる」文化に支えられましたが、それは東京でも同じです。安心して挑戦できる環境があるのは、本当にありがたいですね。

今後の目標 — 東京から広がるキャリア

PJ) これから挑戦したいことや目標はありますか？

今道) まずは東京事務所で信頼される存在になることです。お客様にとって「今道さんなら安心して任せられる」と思ってもらえるようになりたいですね。そのために、税務や会計の専門知識を磨くだけでなく、経営の未来を一緒に考えられる力をつけたいと思っています。数年後には、福岡と東京をつなぐ存在として、拠点を超えて DIG 全体で頼られる人材になりたいです。

就活生・後輩へのメッセージ

PJ) 最後に、これから社会に出る後輩や就活生にメッセージをお願いします。

今道) 就職活動ではつい条件や待遇に目が行きがちですが、私は「一緒に働く人」、「チャレンジできる環境」の2つを大切にしました。DIG に入ってから改めて感じるのは、人の魅力です。困ったときに支えてくれる人がいるから挑戦できるし、成長できる。新卒入社から多くのチャンスがある会社です。

新しい環境に飛び込むことは不安もありますが、その一歩が必ず自分を成長させてくれます。だからこそ「挑戦を楽しむ気持ち」を大事にしてほしいです。もし DIG に来てくださったなら、一緒に成長できる環境が必ずあります。ぜひ一緒に働きましょう。

入社3年目にして東京事務所への転勤という新たな挑戦に踏み出した今道さん。福岡時代から確定申告や新規対応に加え、スタートアップ企業支援を経験してきたことが、現在の自信と強みにつながっています。変化を前向きに受け止め、自分の成長につなげようとする姿勢は、DIG が大切にしてきた「挑戦を支える文化」を体現しているようです。若手社員の活躍は、組織全体に活力を与え、未来を切り拓く力になります。今後も今道さんの成長から目が離せません。



新卒社員の声を聞く

— DIG税理士法人での成長とこれから



DIG税理士法人に入社した新卒2年目・3年目の職員に、就職活動時の思いから入社後の経験、そして将来の展望について伺いました。リアルな声から、DIGの魅力と成長環境をご紹介します。

就活観 — DIG を選んだ理由

社外報 PJ：数ある会社の中から、DIG を選んだ決め手は何ですか？

新卒メンバー：福岡で働けること、福利厚生が整っていること、そして会計分野に携われることを重視していました。ただ、新卒を募集している会計事務所は非常に少なかったんです。その中で DIG に出会い、ホームページを見たときに写真や雰囲気がとても良く、魅力的に感じました。

新卒メンバー：別業種も見ていましたが、インターンでの社内の雰囲気がとてもよかったんです。DIG はまだ歴史が浅く、「会社と一緒に作っていきける」という楽しさを感じられました。

新卒メンバー：他の会計事務所のインターンでは紙を使う場面が多かったのですが、DIG はペーパーレスが進んでいて柔らかな雰囲気でした。そうした違いも大きな決め手になりました。

新卒メンバー：説明会で感じた温かさや、人事の方が素直に話して下さったことが印象的でした。インターンでは人の良さを実感し、特にメンターについて下さった先輩の存在が入社の決め手になりました。

社外報 PJ：同世代の仲間に「DIG はこんな人に向いている」と伝えるなら？

新卒メンバー：新しいことに前向きな人だと思います。新卒 2 年目でも指導係を任されたり、プロジェクトや新しい仕事を打診されたりすることがあります。そうした環境を楽しめる人にぴったりだと思います。

Check Point !

福岡を拠点に就職活動していたメンバーが多く、会計事務所だけでなく他業種も受けていた人もいました。その中で共通していたのは「職場の雰囲気」「未経験から専門分野に挑戦できる環境」「デジタル化の進んだ働きやすさ」が選ぶ決め手になったという点でした。

入社後のギャップ — 想像との違い

社外報 PJ：入社前のイメージと、実際に働いてみた印象の違いはありましたか？

新卒メンバー： インターンを経験していなかったので、成長意識が高い会社だからこそ「厳しい雰囲気なのでは」と想像していました。ところが実際は、みんな親切でとても優しく接してくださり、いい意味でのギャップがありました。指導係がついてくれるので安心できますし、同期の人数も多く、質問や相談がしやすい環境でした。

社外報 PJ：「想像と違った！」と思ったエピソードはありますか？

新卒メンバー： 一番印象に残っているのは繁忙期です。特に確定申告の時期は仕事量が増えるのですが、忙しい中でも学びが多く、振り返るとすごく成長できた期間だったなと感じます。

新卒メンバー： チャット文化には少し驚きました！業務連絡はほとんどチャットで行われていて、スピード感があって効率的です。最初は「対面よりチャットが多いんだ」と思いましたが、対面でも気軽に話しかけられる雰囲気があるので、すぐに馴染むことができました。

社外報 PJ：入社して一番安心したことは何ですか？

新卒メンバー：指導係が長めにつくことです。分からないことをすぐに相談できる体制が整っているの、安心して仕事に取り組むことができました。

Check Point !

入社前にインターンを経験し、仕事内容や雰囲気を知ったうえでDIGを選んだメンバーもいます。一方でインターン未経験で入社したメンバーも、指導係や同期に支えられながら安心して成長できる、そんな環境が整っています。



成長 — 経験からの学び

社外報 PJ：この半年で「成長できた」と感じた瞬間は何ですか？

新卒メンバー：確定申告をやりきったときや、当初の予算を達成できたときは大きな達成感がありました。新規対応から受注まで一人で任せてもらい、受注前の面談では責任の重さやプレッシャーを実感しました。

新卒メンバー：ひとりでできることが増え、自分の判断でスケジュールや優先順位を考えながら期限を守って進められるようになったのも成長だと思います。タスク管理を徹底し、期限のある業務をきちんと終えつつ、追加の依頼も別管理することで漏れなく対応できるようになりました。

新卒メンバー：規模の大きいクライアントを担当することが増え、融資対応など幅広い知識が求められる場で成長を感じました。

社外報 PJ：後輩にアドバイスをするとしたら？

新卒メンバー：まずは楽しい気持ちで取り組んでほしいです。そして、もしミスをしたときは早めに報告することが大事だと思います。定期的な1on1で業務進捗やプライベートも含めて相談できるので、一人で抱え込まないようにしてほしいです。

職場環境 — 働きやすさ

社外報 PJ：会社や職場の「魅力ベスト3」を挙げるとしたら？

新卒メンバー：

- 本社オフィスが広く快適なこと
- フレックス勤務で出勤時間を調整でき、自分で時間を管理できること
- 優しい人が多いこと

社外報 PJ：社内のチームや人間関係を一言で表すと？

新卒メンバー：「元気」だと思います！

社外報 PJ：最近ではChatGPTエンタープライズプランの導入もありましたね。

新卒メンバー：

はい。全社員が安心して使える環境が整ったのはありがたいです。セキュリティ面も安心ですし、業務の効率化や情報共有のスピードアップにつながっていると感じます。

Check Point !

働きやすい環境と元気な人間関係が、日々の安心感や成長の後押しにつながっています。

魅力として、その他にも「天神に本社があるので通勤や退勤後の利便性が高い」「社内でお水がもらえる」「システムが整っている」といった点も挙がりました。



未来 — これから挑戦したいこと

社外報 PJ：今後挑戦してみたいことは何ですか？

新卒メンバー：指示書通りに動くだけではなく、主体性を持って仕事に取り組みたいです。難易度の高い申告書や、他業種の経理など新しい分野にも挑戦したいと思っています。さらに、保険提案や受注にも力を入れていきたいです。

社外報 PJ：先輩の姿を見て「自分もこうになりたい」と思うのはどんなところですか？

新卒メンバー：お客さまから強い信頼を得ている先輩や、知識が豊富でクライアント対応に長けている部長の姿は大きな目標です。

社外報 PJ：今後の目標や「こういう先輩になりたい」という姿はありますか？

新卒メンバー：質問に対してすぐに、そしてわかりやすく答えられる先輩を目指しています。

社外報 PJ：会社の未来に対して、どのように貢献していきたいですか？

新卒メンバー：売上貢献はもちろんですが、クライアントや後輩から頼られる存在として、よりよいチームづくりに貢献していきたいです。

DIG 税理士法人は、若手の挑戦を受け止め、学びと実践の場を提供し続けています。今後も社員一人ひとりの成長を支えながら、お客様により大きな価値を届けてまいります。

制度を正しく理解し、 適切に対応するための 年末調整ガイド



年末調整とは

私たちの給与から所得税が天引きされていますが、これは仮の計算に基づいた概算の金額で天引きされています。年末に1年間の収入や扶養家族の有無、生命保険料などの控除を反映して正しい税額を計算し直します。これを「年末調整」といいます。

計算の結果、払いすぎていた場合は還付、払い足りなかった場合は追加徴収となります。

年末調整の対象となる人

対象となるのは「1年を通じて勤務している人」「年の途中で就職して年末まで勤務している人」などです。

アルバイトやパートも対象です。

ただし「給与収入金額が2,000万円を超える人」「2カ所以上から給与の支払を受けていて他の会社から年末調整をしてもらう人」などは年末調整の対象とはなりません。対象とならない人は確定申告が必要になります。



年末調整に必要な書類

◎必ず提出が必要

- ▶ 給与所得者の扶養控除等（異動）申告書（右上に「扶」と書いてある書類）
- ▶ 給与所得者の基礎控除申告書 兼 給与所得者の配偶者控除等申告書 兼 給与所得者の特定親族特別控除申告書 兼 所得金額調整控除申告書（右上に「基・配・特・所」と書いてある書類）

△該当があれば必要

- ▶ 給与所得者の保険料控除申告書（右上に「保」と書いてある書類）
- ▶ 各種控除証明書、住宅借入金等特別控除申告書 など



法定期限について

年末調整の作業と合わせて行っているものには期限があります。



- ▶ 所得税の納税・・・・・・・・・・1月10日または1月20日
- ▶ 法定調書合計表の提出（税務署）・・・・1月31日
- ▶ 給与支払報告書の提出（市町村）・・・・1月31日 この提出が住民税の計算の元になります

提出について

弊社に年末調整を依頼される方には、11/5 頃を目途に案内文書を送付しますので、そちらで詳細をご確認をお願いします。
「書類が多くて何を提出したらいいかわからない」という方のために、チェックリストも同封します。合わせてご提出をお願いします。

紙以外の方法（データや年末調整ツール）でも提出可能ですので、担当者にお問い合わせください。

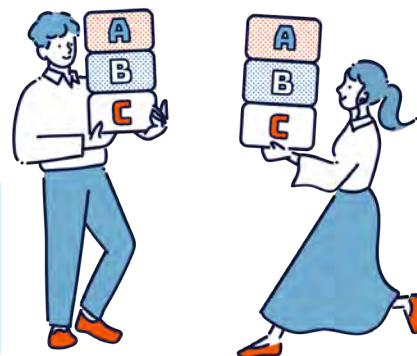
提出期限は 11 月末です。

提出の際のお願い

- ▶（紙提出の場合）従業員ごとにクリップ止めをお願いします。
糊付けやホチキス止めはご遠慮ください。

- ▶ 記入漏れ、提出漏れがないか確認ください。
特に漏れが多いのは下記のようなケースです。

- ◎必須書類の提出漏れ（「扶」「基・配・特・所」と書いてある書類）
- ◎前職の源泉徴収票の提出漏れ
- ◎扶養にのいる配偶者の収入の見込み額記入漏れ



今年から変わるところ

今年には制度改正があり、「基礎控除の見直し」「給与所得控除の見直し」「特定親族特別控除の創設」「扶養親族等の所得要件の緩和」等の変更点があります。

DIG + 8月号で取り上げていますので、ぜひ再度ご確認ください。



早めにご提出していただくことで、計算作業がスムーズに進み、従業員への還付などの手続きも余裕を持って対応できます。

早めの周知とご準備をよろしくお願いいたします。

また、確定申告が必要な方も弊社で対応可能ですのでお気軽にご相談ください。

鹿児島県出水市に拠点を置く株式会社シトラスパレットは、2024年12月に設立されたばかりの新しい会社です。にもかかわらず、すでに農業界や流通業界から大きな注目を集めています。その理由は、同社が掲げる「果樹生産者の支援」と「高収益型農業モデルの構築」という挑戦的なビジョンにあります。今回は代表取締役の池元航さんに、これまでの歩みや事業の狙い、そして農業の未来について伺いました。

市場と産地の両方を知る「二刀流」キャリア

——池元さんは、築地市場での卸売・セリ人というユニークな経歴をお持ちですね。

池元：はい。大学卒業後、東京・築地市場で青果卸売に携わりました。毎朝のセリは緊張感に包まれた独特の場で、全国各地から届く柑橘や果物が一瞬で値付けされる。その場で「生産者の努力がどう評価されるのか」を間近で見てきました。一方で産地に足を運ぶと、「せっかく品質のいい果物をつくっても市場では正しく評価されない」「価格競争に巻き込まれる」という声も聞きました。その経験が、私にとって大きな原点となっています。

——流通と生産の両面を経験されたことが、現在の事業につながっているんですね。

池元：そうです。市場にいたからこそ「どうすれば生産者の果物が適正に評価されるのか」を真剣に考えるようになりました。その答えの一つが、栽培技術と流通を結びつける支援事業でした。



シトラスパレット設立の背景とビジョン

——2024年12月に株式会社シトラスパレットを設立されました。設立の思いをお聞かせください。

池元：私がこの会社を立ち上げた大きな理由は、「生産者の努力が正しく報われる仕組みをつくりたい」という思いです。築地での経験を通じて、どれほど品質の高い柑橘であっても、市場のルールや価格競争の中で埋もれてしまう現実を目の当たりにしました。生産から流通まで一貫した支援体制を整え、地域の果樹農業を守りながら、新しい産業の形をつくるのがシトラスパレットの使命です。

具体的な事業内容

——現在はどのような事業を展開されていますか。

池元：大きく分けて二つです。ひとつは技術支援。糖度や酸度といったデータを測定しながら、生産者と共に品質向上を図ります。もうひとつは流通戦略です。国内市場だけでなく輸出も視野に入れ、生産者の果実をより高く評価してもらえる販路を整えています。単に売るのではなく、価値として伝わるような仕組みを整備しています。



出資とパートナーシップ

——これまでの資金調達について教えてください。

池元：会社設立からの1年間で、合計4,000万円の資金調達を行いました。具体的には株式を10%ずつ放出し、2社からそれぞれ2,000万円ずつ出資いただいています。1社目は農業資材や肥料を扱う株式会社welzoです。こちらとは単なる資本提携ではなく、業務資本提携という形を取っています。例えば「こういう肥料をつくってほしい」という私の要望を反映して製造してもらい、それを技術指導とセットで農家に届けることで、資材の価値を高め、販売促進にもつなげています。お互いにシナジーを出せる関係を築けているのが大きいですね。

——もう1社はどのような企業ですか。

池元：チェンジ鹿児島です。こちらからも同じく10%分の株式と引き換えに2,000万円を出資いただきました。いずれの出資でも共通して大事だったのは、事業計画の緻密さです。「この場合はどうするのか」といった質問に一つひとつ答えられるよう準備し、問題を未然に防ぐ仕組みを示すことを意識しました。

私自身が農家としての経験、市場や卸での経験、研究や営業の経験などを重ねてきたことが背景にあり、それらを組み合わせた事業プランに納得いただけたのだと思います。数字の裏付けだけでなく、ステークホルダーが安心できる体制を整えることが、資金調達の成功につながったと感じています。

🍊 農業が直面する課題

——農業の現状と、直面している課題についてどうお考えですか。

池元：まず大きいのは環境変動です。そして農家の高齢化が進み、平均年齢は68歳を超えています。10年後にはどうなるのか、先行きが不安な状況です。こうした問題はコメや野菜の価格高騰など、消費者にも直接つながっています。ですから、解決できる部分は一つひとつ解決しながら、生産者の所得向上に結びつくように、栽培技術や販売活動、さらには会計面も含めてサポートしていく必要があると考えています。

——高齢化が進む一方で、後継者の姿も見える場面がありますか。

池元：そうですね。全国のJAを見ても、儲かっている地域では生産者の平均年齢が若い傾向があります。20代や30代で父親から経験を引き継ぎ、すでに経営を担っている人も少なくありません。やはり利益が出ていれば後継者は自然とついてきます。農業が「きついつから継がない」のではなく、「所得がしっかりあれば戻ってくる」ケースも多いと感じています。

——望ましい世代交代の形についてはどうお考えですか。

池元：理想的なのは、50代60代のうちに経営者がしっかり利益を上げ、必要な資金を確保して早期に引退することだと思います。その段階で次世代、20代や30代のうちから経営経験を積ませ、判断力を磨いていける環境が望ましい。そうすることで持続的に農業を次世代につなげられるはずです。

——課題解決の見通しについてはいかがですか。

池元：若い世代が主体となり、新しい技術や発想を積極的に取り入れていくことが大切です。一つひとつの課題を紐解きながら対応していけば、今の状況を必ず打破できると考えています。

🍊 今後の展望

——シトラスパレットとして、今後の展望をお聞かせください。

池元：弊社の強みは、特定の都道府県や地域に縛られないことだと思っています。現在の農業は「儲かるJA・儲からないJA」「ブランドのある産地・そうでない産地」といった枠組みによって、生産者の所得が左右されてしまう現実があります。私は、それを少しでも解消したい。生まれた地域によって農家の将来が決まってしまうような状況を避けたいんです。そのお手伝いを続けていった結果として、シトラスパレット自身も大きくなっていければと考えています。

——御社は自社農園を持たず、農家支援に特化されていますね。

池元：はい。自分たちで畑を持って作物を生産するのではなく、農家の方々をサポートする形を取っています。その結果として、事業規模も大きく拡大できる可能性があると考えています。例えば一つのJAが年間数十億から百億単位の売上を上げていますが、弊社のやり方でも将来的にはそれに匹敵する数字を十分に見込めるのではないかと感じています。

ただし、私にとって重要なのは金額の大きさそのものではありません。その売上は「支援できた農家の数」の総和だと考えています。ですから、胸を張って数字を追いかけていし、その数字を通して農家を助けられる会社であり続けたいと思っています。



🍊 読者へのメッセージ

——最後に、読者である中小企業経営者や農業関係者へのメッセージをお願いします。

池元：農業も一つの企業経営だと考えています。栽培や製造、販売や営業といった要素をしっかり結びつけて、どうバランスシートを描くのかを経営者自身が考えていかなければなりません。その際には税理士法人のような専門家と話し合いながら、数字に基づいた長期的な目標を設定し、判断できる力を養っていくことが大事だと思っています。私自身も常に勉強していきたいと思っています。

——読者の方々に具体的に伝えたいことはありますか。

池元：そうですね。うちの商品に限らず、日本の果物は海外産と比べても本当に美味しいと自信を持っています。値段は少し高いですが、週に一度でも国産の果物を手に取っていただければ、それが農業界全体の発展につながります。ぜひ日常の中で国産フルーツを楽しんでいただければ嬉しいです。

編集後記

池元さんのお話から感じたのは、農業を「一次産業」ととどめず「経営」として捉える視点でした。市場経験を持ちながら産地に根ざし、さらに科学やデジタルを取り入れる姿勢は、新しい農業の形を示しています。柑橘の未来を育てるシトラスパレットの挑戦から、私たちも学ぶことが多いのではないのでしょうか。

pick up

1day 仕事体験 開催レポート

— 学生が銀行融資に挑戦！「経営のリアル」を学ぶ一日 —



DIG グループでは、次世代の人材育成の一環として、大学生を対象とした「1day 仕事体験」を実施しています。9月に行われた今回のプログラムでは、「飲食店開業支援」をテーマに、実際に銀行融資を受けるための経営計画づくりを体験。3時間という短い時間ながら、学生たちは創業計画書と資金繰り表を手に、現役の税理士法人スタッフや銀行融資担当役の先輩社員と議論を重ねました。机上の学びにとどまらず、経営者さながらに「数字で語り、判断を仰ぐ」場面に挑んだ学生たち。その奮闘ぶりを振り返ります。

プログラムの概要

インターンの舞台は「飲食店の開業」。すでに物件や席数が設定された状態からスタートし、学生たちは「開業計画をどう磨き、銀行に説明できるか」に挑戦しました。ファシリテーターとして新卒社員が同席し、議論の方向性をサポート。さらに、銀行融資担当役の職員がグループを回り、時折厳しい質問や具体的なアドバイスを投げかけるという、実務さながらの緊張感あふれる環境が用意されました。

学生たちは創業計画書（一部入力済み）と資金繰り表をもとに、グループで収益構造やコストの見直しを実施。新卒社員が用意した関数入りのスプレッドシートを活用しながら、現実的な数字に落とし込みました。最終的なゴールは「銀行融資担当課長からのゴーサイン」。そのために2～3回のプレゼンを行い、その都度フィードバックを受けて修正を重ねていきました。

学生たちの挑戦

最初のプレゼンでは、多くの学生が「コンセプトの魅力」や「地域性」などを強調。しかし、銀行員役からは「その数字の根拠は？」「人件費をこの規模で本当に賄えるのか？」といった突っ込みが次々と飛びます。慣れない経営の世界に戸惑いながらも、学生たちはグループ内で議論を重ね、客単価の設定や従業員数、仕入れコストを見直していきました。

中には「新サービスを追加することで売上を増やす」というアイデアも飛び出し、単なる数字の調整にとどまらず、事業計画そのものを再設計する姿勢も見られました。短い時間で試行錯誤を繰り返す中、学生たちは「経営のシミュレーション」の奥深さを実感していきます。最終プレゼンの頃には、学生たちの表情は大きく変わっていました。自信を持って数字を語り、融資担当者の質問に対しても具体的に答える姿に、わずか数時間での成長がはっきりと表れていました。



先輩社員との交流

ワーク終了後、若手社員との座談会も開催いたしました。ここでは「就活のリアル」や「税理士法人のキャリアパス」についてのざっくばらんな話が繰り広げられ、学生からは積極的な質問が相次ぎました。

「数字が苦手でも大丈夫ですか?」「入社後の研修はどんな内容ですか?」といった具体的な疑問に対し、先輩社員が自身の経験を交えながら丁寧に回答。学生たちは、職場の雰囲気や働き方をより具体的にイメージすることができたようです。



— 参加者の声（事後アンケートより） —

体験を終えた学生からは、次のような声が寄せられました。

「他の企業では学べない実務的な体験ができた」

「経営コンサルタントとしての働き方を垣間見ることができ、やりがいを感じられる場面が多かったです。自分の意見と相手の意見を調整しながら、より良いものを作り出す過程の難しさと楽しさを学べました。」

「税理士の仕事の解像度が上がった」

「これまで漠然としたイメージしかなかった税理士の業務が、実際のコンサルティング体験を通じて具体的に理解できました。さらに、先輩社員と直接話せたことで、社員の人柄や職場の雰囲気を感じ取ることができ、とても参考になりました。」

「知識不足を痛感し、就活にも役立った」

「資金計画の知識不足を実感でき、自分に足りないものを明確にできたのが良い経験でした。また、先輩社員から就活の進め方やリアルなアドバイスを聞いたことも有意義でした。」

これらの声からも、学生たちが「数字を扱う難しさ」と「議論を通じて形を作る面白さ」を感じ取ったことが伝わってきます。

今回の仕事体験は、参加した学生にとって「経営を数字で考える」実践的な機会となりました。同時に、先輩社員の存在やフィードバックを通じて「コンサルタントとしての働き方」を身近に感じる場にもなりました。

DIGグループでは、今後もこうした実践的なプログラムを通じて、学生が将来のキャリアを考えるきっかけを提供していきます。また、経営者の方々にとっても、次世代の人材が「数字で経営を語る力」を身につけることは、地域経済の未来を支える大切な一歩となるはずです。

<新卒採用> 11月開催 1day 仕事体験のお知らせ

大学1～3年生を対象とした新卒採用向け
「1day 仕事体験」を開催！

税務コンサル・経理事務・人事コンサルなど3職種を日程別に体験いただけます。

◎税務コンサル 11月19日(水)

◎経理スタッフ 11月21日(金)

◎人事コンサル 11月26日(水)

会計事務所のお仕事に興味がある方、早期選考に関心のある方はぜひご参加ください。

▶詳細・お申し込みは
QRコードからご確認ください。



Recruit

全国の拠点で積極採用中です!

DIGグループでは、全国7拠点（東京・奈良・大阪・福岡・北九州・鹿児島・那覇）で積極的に採用をおこなっています。

会社説明会やカジュアル面談も随時実施中です!



説明会の情報は
こちら▼



第3回「AIディグる会」

～みんなのAI活用をシェアしよう～

▶開催日：未定

▶時 間：18:30～20:00（開場 18:00）

▶場 所：DIG税理士法人セミナールーム
（福岡市中央区天神 4-3-30 天神ビル新館 6F）

先日第2回の開催をしました「AIディグる会」ですが、早くも第3回の開催が決定しました。

第2回では第1回とはまた違ったAIの活用方法が共有され、わずか3か月の間でもAIの進化を実感できる内容でした。

各登壇者からは、業務の中でどのような課題を抱えていたのか、そしてそれをAIでどのように克服したのかといった具体的な事例が紹介され、「AIでここまでできるのか」と感じる発表が多くありました。

第3回は、まだ参加したことない方もご参加をお待ちしております。事前お申し込みいただいた方には、日程が決まり次第ご連絡いたします。



事前お申し込みは
こちら▼



読者アンケートのお願い

「もっと読みたくなる DIG +」を目指しています!
ご意見・ご感想をぜひお聞かせください。

ご回答
フォームは
コチラ▶



11月号アンケートからピックアップ

経営や業務に関して、最近気になっていること・困っていることがあればお聞かせください。

ご回答頂いた方
みなさまに DIGグッズを
プレゼント!

